芦高新聞

発行所
県立芦屋高等学校
出版部
兵庫県芦屋市宮川町6-3
℡ 0797－32－2325

12月号

―The Earth―

第38回記念祭終わる

去る十月一日から五日間にわたって、"記念祭"が行なわれた。今年のテーマは、"The Earth"で、"空・海・大地・人間"に基づいて、自治会展示が行われた。また今年は新しい試みとして、"Culture Festival in A.U.S.S"を二日目に設け、盛り上がったようだ。

雨の中の体育祭！

十月一日、小雨の中、始まった体育祭だったが、やはり、三年生ともなると、さすがに凝っていて華やかであった。

この様にして体育祭は終わったわけだが、中途半端のままで、今一つ、しっくりいかなかった。三年生は尚更のことであろう。

Culture Festival in A.U.S.S

今年で四回目の討論会、"Free Talk AUSS"は、記念祭最終日の十月五日に図書館に於て行われた。

一年生の小海さんの司会で、第三十九代自治会長宮尾さんをまじえて、「地球は滅びるか」について討論し始めた。最初は、芦高の環境や服装についてあげられた。環境については、四十二号から、なるべく使わないようにして、軍事利用はしてはいけない。」という意見が出た。

「地球は滅びるか」というテーマに添わず、あまり関係のない方面に話がそれたりして結局、地球が滅びるか、滅びないか、という次に、話は急変して、今話題になっているシレトコの原生林の伐採について討論している内にいたらの問題へと話がそれていた。その結果、「採算が取れれば、原生林を切ってもよい」という事になった。一時間以上テーマ外の事を話した後、やっと事前に全校生徒からとってあったアンケートを元に進められ、原子力発電の利用などについて、討論し始めた。その結果、討論になったが、四十二号線や、阪神電車などがあげられ、「みんなも多かれ少なかれ利用するからしかたがない」という意見がでて服装については、「制服は個性がなくなる。私服によって勉強の妨げになることは少ない。」という意見がでて、みんな納得したようだった。結論までには至らなかったようだった。少人数のせいか、盛り上がりにも欠けてしまった。やはり、もっと大勢参加するように努力すべきだと思われた。

地球は滅びるか　滅びないか

前日の激しい雨とは打って変わった様な晴天の中、予定より少し遅れて始まった。

司会は、ラグビー部のヒーローである二年G組の豊田聡君と、二年F組の池君。なかなか息の合ったコンビで、その場その場で緊張を解いてくれ、下手すれば白けてしまう"間"を必死に盛り上げてくれた努力には、盛大な拍手を送りたい。

自治会長、宮尾重吉君の妙に場慣れした挨拶で幕が上がり、初めは一年生による合唱。さすがに音楽クラスとあって、声がよく出ていた様である。曲目は一年B組が「守ってあげたい」、一年E組が「冬が来る前に」、一年H組が「大地讃頌」と、どれも親しみ深いものばかりで、思わず口ずさんでしまった人もいたであろう。やはり合唱は、記念祭にはなくてはならないものとなっている様な気がした。

バンド演奏では、普段とはまた違った部分が見え、特に印象に残っているバンドと言えば、"Middle dude"があげられよう。このバンドは、レベッカの曲が中心でボーカルである、二年F組の嶋田真子さんの声がよく通り、聴いている方も彼女の熱気に押された。一人が立ち上がると、それに釣られたのか、又一人、又二人と立ち上がり大変な盛り上がりとなった。しかし一年生の盛り上がりが少なかったが、大勢の声援を受けて彼女の声は、アンコールまで響き続けた。

そんな和やかな雰囲気の後、一層緊張感を増しての弁論大会。審査員の先生方も審査メンバー。少し声が小さく、訴える様な力強さに欠けていたが、あんなに大勢の前で馴れない事をするのだから無理もない。内容的もよくまとまっていて、何度も何度も練り直し、書き直した健気な姿が目に浮かぶ様であった。

今年初めての企画と言う事で新鮮さが感じられた。来年からも、伝統的な行事を続けていく事も大切であるが、その中にどんどん新しい企画を織り込んでいってほしい。そして二十四年間、芦高の先生や生徒達に親しまれて来た体育館も、今では影もないが、たくさんの思い出と共に、皆の胸の中に残るであろう。

記念講演会「未知なる自己の発見」

今年は、久しぶりに記念講演会が行われた。講師は京都市立伏見工業高校教諭である山口良治先生だった。初めは自己紹介に始まり、自分の青春時代の事、ラグビーで活躍した事など、面白い話を交えて、話をされた。私達に興味深い話も多かったので、みんなよく聞けていたようだった。山口先生はテレビ番組「スクールウォーズ」のモデルになられた先生だといえばお話しをされた。そして、山口先生は、大きな拍手で送られ、体育館を後にしたら体に毒だよ」と、しかしどこからかスタコラと"まけないくん"がやって来て、私がちょっとだけ寝ようと目覚し時計をあわせると涙を浮かべて、「だめだよ。眠っちゃいけないよ。これじゃあこの前のテストと同じじゃないか」と叫ぶのです。そしてまた目がさえるが結局は「ぐぅー」と寝てしまうのです。

皆さんはこんなことはないと思いますが、今回のテストはどうですか。皆さんがんばっていることと思いますが、残り少ない時間がんばって下さい。

裏表独語

冬も押し迫り、セーターだけでは肌寒い季節となりました。

記念祭も嘘のように過ぎ去ってしまい、ふと後ろを振り向くと恐怖の期末考査が手ぐすねもなくやって来ています。そういえば、"今回はがんばるぞ。"と言ったような、言ってないような……。

テストまでの日にちを数えると、もう二日前で、"どうしよう、どうしよう。"と思っているうちにテストが始まってしまうのです。

まァ、テスト一日目はいいのですが問題は二日目です。二日間という少ない期間でできるのは一日目の教科ぐらいで二日目からはやっていない教科がどどォーと押し寄せてきます。

しかし、何から手をつけていいのかわからず、気がつくと夜がしずしずと訪れていました。

ここに皆さんと私の別れ道があるのです。私は、昔から"なまけさん"と友達で"なまけさん"に誘われるとついついなまけてしまう。眠くて限界に近づくと"なまけさん"はこう言うのです。"起きてたらしんどいよ。眠たいんだったら眠ちゃったら？夜更かしして

編集後記

文化部公演

去る十月三日、芦屋ルナホールにおいて、文化部公演が行なわれた。今年は落語研究部が数年ぶりに公演するなど、昨年とは一味違った文化部公演となった。

落語研究部

落語研究部は数年ぶりの公演ということで、どんなものを披露してくれるのか大変期待された。初めは順風亭くるみという女子が演じた。昔話を取り入れた内容で、軽快でおもしろい話し方が良かった。次に、次亭魔黒という男子が演じた。内容は、面倒くさがりの親子の会話で、話し方と表情がよく表現できており、笑いを引き起こした。順風亭くるみ該では、題名を言い忘れた程緊張して、言い間違えたりしたけど、後でいろんな人から「よかった」と言われ、とても励みになりました、という事でした。

日本ライト部

コーラス部の公演は「ロッキーのテーマ」で始まった。この曲は、テンポの早い曲なので少し歌いにくそうだった。次に、松任谷由実の「メトロポリスの片隅で」、サザンオールスターズの「Ｙａｙａ（あの時代を忘れない）」が合唱された。男子生徒が少ないのにもかかわらず、うまく高音と低音が調和されていた。そしてその次に、「内なる遠さ」より「燃えるもの」、「心の四季」より「流れ」を披露した。最後は引退した三年生も加わり、なかなかの熱唱だった。

美術研究部

ギター研究部のステージは今年は九人で構成された一バンドであった。

初めは「ANTHEM」のより一層の盛り上がりとなった。この後、パンフレットにのっていなかった曲も数曲披露して観客もノッてきた。

次はアンコールの声がかかるかと思われたが今年はなしで少しさみしかった。

郷楽部

文化部公演の午前の部は、邦楽部による「童謡集」で幕が上がった。この曲は、一年生だけで演奏された。初めということもあって、少し緊張ぎみだった。二曲目「さらし風手拍」は、二年生だけで演奏された。三曲目「ゴッド・ファーザー」は、よく知ってる曲だけあって、静かに観賞していた。最後の曲は「元禄花見踊」で、迫力のある演奏で幕を閉じた。後のインタビューでは、みんな、はしってはしって練習の成果が発揮できなかった。しかし一年はがんばってくれた。今はもう、近畿大会をがんばるだけですと、話してくれた。

演劇部

文化部公演午前の部は、演劇部による「壱与の闘い」で締めくくられた。今年の記念祭のテーマにちなんで世界の誕生といった内容の劇で、壱与とその巫女たちの争いをめぐって話は展開していった。最初は少しわかりにくかったが、劇が進んでいくにつれて音声のボリュームも大きくなり、熱の入った迫真の演技に観客は圧倒されつつあった。一人二役も、うまくこなせているようだった。最後は、すべての人が死に、壱与にあって世界を誕生させる事ができ、観客の感動の拍手で幕は閉じた。

応援団

今年も応援団リーダー部では、非常に迫力のある演技の数々で観客を魅了させた。

最初はまず「応援歌」ではじまり、演技の前に司会者がユーモアたっぷりの語り口で観客を笑わせた後、「レッツゴー芦高」で始まり「かっぱ拍子」「一・二拍子」「芦高囃子」「芦高連舞」「げんこつ拍子」「三・三・七拍子」などが行なわれ、最後は「校歌」で締めくくった。カッパ拍子などは、演技している方は真剣なのだがみんなを笑わせ、長い伝統に受け継がれてきた技も、すっかりみんなには溶けこんだようであった。

吹奏楽部

文化部公演の最後は吹奏楽部の演奏でフィナーレを飾った。

最初は「APPALACHIAN OVERTURE」という軽快な曲で始まり、二曲目の「ティコティコ」もリズムにのる曲であった。その後「BIRDLAND」みんなもよく知っている「BAN BAN BAN」「STAYIN ALIVE」などが演奏された。特に「ティコティコ」「STAIN ALIVE」はソロがあり観客の注目を集めた。

全ての曲が終了した後、恒例の拍手によるアンコールが起きた。アンコール曲は「テレビまんがメドレー」で、みんなの知っている曲が何曲か続いて演奏された。メドレーが終わっても二度目のアンコールがかかり「スターウォーズ」が演奏され、盛り上がった雰囲気で文化部公演最後の幕が閉じられた。

放送部

放送部では「一年生」による放送劇「ピーターＩＩパン」が演じられた。

列の変わり方や照明などよく練習していることがわかった。そして毎年のようにに観客をだんだんと引きつけていく口調には感心させられた。特にピーターＩＩパンとウェンディのやりとりに観客は喜んでいたようだった。

後のインタビューでは素晴しい出来で良かったと満足していた。しかし公演中の観客の態度は少し高校生としてはずかしい鑑賞のしかたではなかっただろうか。最後には静かになったものも少しやっている側になって見てほしいものだ。

美術研究部

盛り上がらず

今年の文化部展示は、記念祭講演会後、午後一時よりは上々で、教室は熱気でムンムンしていた。いろいろなジャンルの曲を演奏し、盛り上がっていた。▼茶道部では、例年通りお茶会を開き、たくさんの人々が訪れていた。出前もやっており、着物姿の部員がおいしいお茶とお菓子を運んでいた。▼史学研究部では、「京都での信長・秀吉・家康の足跡」というテーマで展示を行なっていたが中でも二条城の模型が良く出来ていた。▼写真部では、記念祭のテーマに「地球」と写真部自由作品を展示していた。▼将棋研究部では、対局場や押しピンの販売も行っていた。▼邦楽部では、今年も例年通りお琴の一般公開が行なわれた。歌謡曲をお琴用にアレンジし、生徒は慣れない手つきであったが挑戦していた。▼漫画研究部では、イラストや短編漫画の展示、他にオリジナル葉書などを販売していた。▼落語研究部では、二年生を中心に落語を披露していた。▼放送部では、例年通りステレオコンサートを行い、ポスターやテープのプレゼントも好評だった。▼図書部では、夏休みに行った吉野紙すき合宿を中心に、和紙について詳しく紹介していた。

近年、文化部の弱小化が言われているが、どの部もこの文化部展示に対する努力は見られた様に感じられる。

出版部

新入部員募集中

燃える男・女!!

212号教室まで

クラス展

もう一歩…

今年は記念祭の四、五日目がクラス展示であった。

今年も一、二年は、「THE EARTH」のテーマにそって展示で全員参加、三年生は自由展示を行った。

＊　＊　＊

一年Ａ組は、空に関するクイズを出していた。Ｂ組は、「星空」という題にちなんで星占いをしていたが手抜きが感じられる点があった。Ｃ組は、古代から現代までのファッションショーをしていたが、一日一回なんで星占いをしていたが手抜きが感じられる点があった。Ｃ組は、古代から現代までのファッションショーをしていたが、一日一回

＊　＊　＊

今年は記念祭の公演は少し物足りない気がした。Ｄ組は、プラネタリウムを作っていたが、期待はずれという気がした。Ｅ組は、海底模型、魚の模型、かまぼこなどを作っていた。Ｆ組は、「ＳＴＡＲ ＷＡＴＨＩＮＧ」という題目に魅かれて行ったが、わりと良かった。Ｇ組は、いろんな海の名所を紹介していた。Ｈ組は、「海」を主題にし、夏の雰囲気がいっぱいの展示をしていた。Ｉ組は、類人猿から現代までの人間の模型が置いてあったが、なかなか上手にできていた。Ｊ組は、海をテーマにしたＢＧＭを流したりしていた。

二年Ａ組は、迷路ということわりと人気を浴びていたが、一方強引な所もあり、不平を言っている人もいた。Ｂ組は、「砂漠化」という難しい分野に挑戦しており、「人々の面白い生活に砂漠で生きぬく植物」などを研究していた。Ｃ組は黒人対白人、男対女、親対子などの人間同志の対立についてのアンケート結果などを展示していた。Ｄ組は、地震についてや、緑の増やし方など、大地の神秘的な現象について考えているようであった。Ｅ組は「ぼくらの第一産業」という題で、かいわれ大根などのリーム、ジュースの販売、Ｄ組は、お化け屋敷をしていたが、とても好評で、行列がたくさんできていた。Ｅ組は、地震についてや、緑の増やし方など、大地の神秘的な現象について考えているようであった。Ｅ組は「ぼくらの第一産業」という題で、かいわれ大根などの野菜を栽培しており、凝っているとの思う反面、いまひとつという感じもした。Ｆ組は、映画を上演しており、出来上がるまでにずいぶん苦労したことだと思う。このビデオを見た人はこのクラスが一つになっていることをしみじみと思いしらされたのではないだろうか。Ｇ組は食べ物、将来の服装などについて百人にアンケートをとり、その結果をまとめていた。少しわかりにくい点もあった。Ｈ組は地球儀作りで、ＨＡＮＤ・ＭＡＤＥの地球儀の上に、お子様ランチなどについて、やりにくく、のらなかった点もあるのだろうが、もう少し、見る方の立場になって興味をそそるような展示をしてほしかったように思う。

開幕祭

余韻を残して…

今年で三十八回を迎えた記念祭も、この閉幕祭で、幕を閉じる事になった。初めは記念祭歌斉唱で、続いて学校長、自治会長の挨拶が行われた。毎年あたりまえのデコレーションなどの表彰も行なわれず、すぐアトラクションが始まった。バンド演奏などで盛り上がった。しばらくして暗くなり始めると、ファイヤーストームが点火され、すぐフォークダンスに移った。曲は去年に引き続きラッツ&スターの「Ｔシャツに口紅」と今年は新しく、「ダンシング・クィーン」「My Revolution」「Baby it's You」「カルメン」といつもと比べて曲目が多かった。初めはほとんど、踊るなにいつもなかったが、暗くなるにつれて、だんだん増える人がいなかったが、踊りながら、ファイヤーが行なわれた。そしてオンが輝いて、記念祭は幕を閉じた。

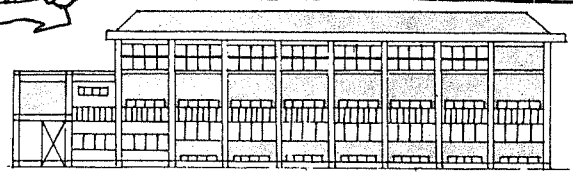
＊　＊　＊

新設体育館!!

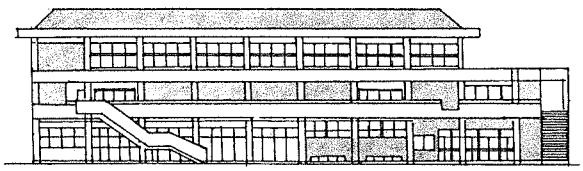
やったね！三階建て

昭和三七年初秋、県下に誇るに足る体育館の完成から、約二〇年間経った今、たくさんの思い出を後にして新しい体育館の着工が決まった。

S37、6・30　（旧）体育館完成
S51、8・30　プール完成
S54、1・11・15　竣工
S61、1・2　今の体育館の床の改造
S61、9　格技場の新築
S62、12　新運動部室完成
新体育館完成予定



北立面図　1：200



南立面図　1：200

本校で一番長い間、この体育館を使ってこられた体育の高木先生にお話を伺いました。

出版部（以後、出と称略）「先生はこの学校に初めていらした時は、高校生だったんですよね。」

高木先生（以後、高と敬称略）「そうです。高校一年生の時、県大会の試合に正選手の荷物持ちで来ました。」

出「この体育館を見てどんな感じがしましたか。」

高「他校に類を見ないモダンな香せ棟屋根が印象に残っています。」

出「体育館を使用して良かった点、悪かった点を教えて下さい。」

高「良かった点は、フロアーが他より広く使えたこと。悪かった点は、ガラス窓が破れやすかったことです。」

出「では最後に、新しい体育館について生徒に何か一言。」

高「体育施設の少ない本校ですので、できるだけ多勢の人に有効に使ってほしい。」

私達がはじめてこの体育館を見た時、なんて汚ないのだろうとか、工場みたいだとか、あまりいい印象をもった生徒は少なかったのではないだろうか。

しかし、一見何のへんてつもなかった今の体育館だが、私達の知らない工夫が成されていたことに着目したいと思う。

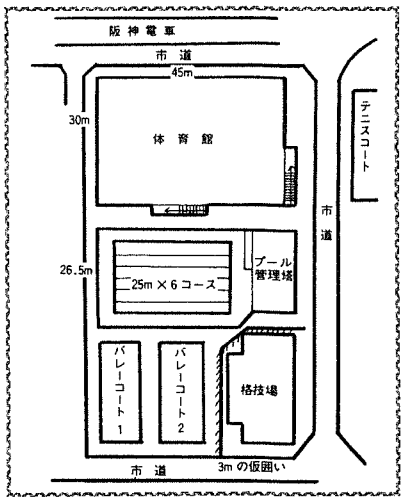
一つに、高木先生がおっしゃられた通りに屋根が寄せ棟（中央を頂点として四隅に棟線をもつ屋根をいう）になっていることであり、これは敷地の狭少が原因である。そして寄せ棟であることは、いくつもの良い特徴をもっている。

まず見た目が広く、圧迫感を感じないし、通気性もよく涼しい。

又、バレーボールなどの球技には機能的で使いやすい。などである。

西側の道路沿いからの建物制限があり、しかも天井を高くしたいための工夫がこの形となった。（当時の体育館の軒高は五メートル普通であった。本校は六メートルである。）

外観も当時は気品高く、芦屋の地にふさわしい建物であったそうだ。



出版部
新入部員募集中
燃える男・女!!
212号教室まで

『すべて新しく』

今度、新しく建設されることになった体育館は十月が出来るが以前より少し広くなり、室内に洗面所ができるのは Point な女生徒にとって欠かせないものとなるだろう。

今回の改築の理由としては老朽化のためである。

これからは新体育館について、いろいろと書かせて頂くが、図を参考にして追っていくことにしよう。

まず玄関である。タテ二十メートル、ヨコ十メートルの広いロビーがあり、そこには大きな支柱が三本並んでおり、まるでホテルのホールを思わせるような造りだそうだ。尚、靴箱は外につく予定である。

一階には柔道場・剣道場そして何よりもの特徴がトレーニング室が設置される。生徒の運動能力向上のためにいろいろな器具が入る予定だがまだその内訳は、はっきりしていない。

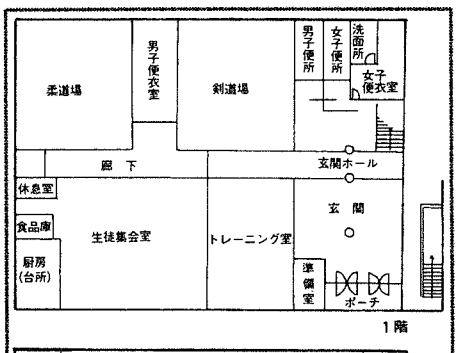
また、男子生徒にとって非常に喜ばしいことは専用の更衣室が出来ることである。今までのように衣服が地べたに散乱しているというような光景は見られなくなるだろう。女子にも、もちろん今まで通りに更衣室が設置されるだろう。

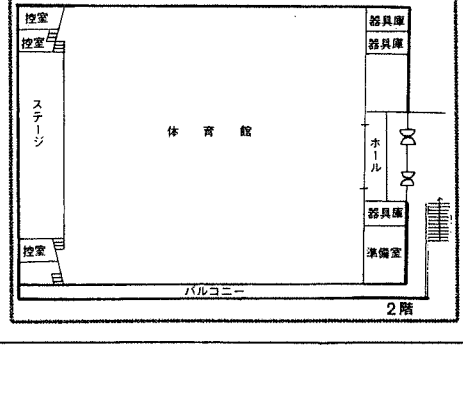
柔道場には畳をはずすと多目的に利用できる床になっている。多目的といってもどういうものかピンとこないだろうが、ようするに剣道などにも使えるという意味らしい。そして格技場は改築しないので格技場のみならず、新体育館に設置される柔道場・剣道場も並行に使うことができるので今までより、のびのびと練習できることは間違いないであろう。

また生徒集会室は学年集会や保健体育の時間にも使えることになっている。

昨年の卒業式は余儀なく他の場所で行われる。三年生は知っていると思うが、西宮市民会館で行われる予定である。高校生活の最後の行事を自分たちの学校で行うことができないのは三年生にとって本当に残念だと思われるが、芦高の一つの大きな移り変わりであるのだから、すでに納得してくれていることであろう。

そして何よりの問題は、新体育館建設中にどうしてもさけられない、近所の方々への公害問題である。騒音、ほこりの害、人の往来などで、付近の方々に御迷惑をかけることが多くなるが、我々の普段の生活態度でそのことでの苦情を言われないように一人一人が自覚をもって行動したいものだ。





なるのだが、陸上部の関係もあり、今まで通り西宮市民グラウンドを使用することになるだろう。

部活動と同じように、今次にプールである。今までと同じように、二十五メートル×六コースである。そして皆さんが気にしていた阪神電車であるが、その問題は図のように完全に解決される。プールの前には管理塔がある。一階は水泳関係で二、三階は計十二個の運動部室がある。この設計は他の学校では見られない我が校独特なものという話である。そして二階から体育館の二階にかけて渡り廊下でつながっている。いちいち下まで降りなくてもよいという点で、人気を呼ぶ通路になるのではないだろうか。

さて、体育館を使用してきた部活の今後の活動については次のような内訳になっている。

まずバスケットボール部・器械体操部・卓球部・バレーボール部は芦屋市民体育館・芦屋南高等学校で合同練習をしたり、土・日については県立総合体育館を使用することになっている。

水泳部は芦屋南高等学校のプールを使用させてもらうことになるだろう。

名物先生シリーズ〈第二弾〉井上亮先生と建先生の巻

COME BACK ダンティー井上

名物先生シリーズ第二弾今回は、豪華キャストでお送りします。

まずは、帰って来た英語の井上亮介先生です。あなたは、井上先生を知っていますか。知らない人は新入類ではない。あの人ですよ。ダンディー先生。

では、井上先生にインタビューしましょう。

出版部（以後、出と称略）「何年前からこの学校にいらっしゃるんですか。」

井上先生（以後、井と敬称略）「うん、そうだなあ、二十八年の四月に入ったから、もう二十二年になるかナァ。」

出「この学校で一番古いと聞きましたが。」

井「そうです。一番古いんです。」

出「英語の先生になったきっかけは何ですか。」

井「きっかけ、別にないけど何となく。」

出「はァ、そうですか。」

井「正直に言っちゃうと、昔は日本が戦争に負けた直後だから生活するために、英語は役立つと思ったんだ。それで二年ほど英語の教師をしようと思ったが「ダンディー」でしまってもずるずると一生やってしまったんですよ。」

井「うん、やっぱり、生活より何より生徒との信頼感というか、そっちの方に生きがいを見つけたんだ。」（ジーン、昔さん聞きましたか、私は感動して目頭が熱くなる思いをしました。シク、シク、はいそれでは続けましょう。チーン）

出「いつもとてもお酒落で いらっしゃいますが、お酒落は好きですか。」

井「お酒落じゃないですよ。何ていうか、身だしなみの一種というか、きれい好きというか自分では、あまりお酒落だとは思ってませんよ。だってお酒落はお金がかかるもん。」（ケラケラケラ……と音）

出「何か、きびしいですね。御苦労様でした。」

出「最後によく苦手な科目は、好きになりたいと言いますが、嫌いになってしまった英語はどうしたらいいのですか。」

井「そうだなあ。難しいなあ。嫌いになるのは、教える先生にも責任があるんだ。」

出「そうですよ。私も中学一年の時、教えてもらった先生が気が弱くて教え方もプリントだけやらしてたので、そこでつまずいてしまったんです。」（と言えば年はわかってしまうが）私達の大先輩になります。ふだんは怖そうですが、本当はとても話しやすい先生なので、進路の事など何でも相談しに行きましょう。では、インタビューに入ります。

出版部（以後、出と略）「名物先生に選ばれた感想はどうですか。」

建先生（以後、T と敬称略）（ちょっとムスッとして）「僕は別に名物ではない。」

出「えー、名物ですよー。えっと、先生は昭和三十九年からこの学校におられますが、芦高は当時とどうでしたか。」

T「難しい質問やなー。うーん」（しばらく考え込んで）「それは都会性のいいところを表面的に身につけていて、素直さがある生徒。」

出「都会性のいいところねえ……私服にいてはどう思われますか。」

T「君達は、制服の方がいい？」

出「ん、やっぱり制服の方が考えなくて済むし、かっこいいし。」

T「でもよその制服の学校の生徒が持っていない、みだしなみにT.P.O.（時と場所、場合）を考える能力がだんだん身についていくのが私服なんだ。」

出「そうかなァ。」

T「うーん。よく飲むからぴっくりしている。一日に三種類のお酒を飲む。学校にはあらゆる種類の酒が全部揃っているからなー。」

出「へえ、すごい。」

出「急に質問は変わりますが、先生は日によって態度が違うようですね。」

T「僕はいつも変わらない。」（と、きっぱり）「みんなそんな事思ってるの？。」

出「はい、先生が教室に入って来られた瞬間、今日は機嫌が悪そうだなあとか隣の子とぼそっと言ったり。」（笑）

T「ハハハ」（大笑い）

出「最後に芦高生に一言。」

T「立派な先輩たちがたくさん出ているから学校にいる事を自覚して、芦高生として恥ずかしくないように自由な中のきまり（シンボルの学年章なども）を十分に守ってほしいものだ。」

出「どうもありがとうございました。」

＊　＊　＊

今回は、とても対照的？なお二人の先生にインタビューしましたが、どうでしたか。井上先生は、「あまり変な事を書かないでくれよ。」と言いながら、ちょっぴり照れて話してくださいました。あの建先生は、いつもとはうって変わって、ニコニコ顔で話してくださいましたが、日によって機嫌が違うとか絶対にないし、と念を押して言っておられました。BCL生物選択者の私にとっては正座させられたり、「予習、予習」とやかましく言われるのは、大変苦痛です。とにかく、井上先生、建先生、御協力ありがとうございました。

記念祭をふりかえって

部説

例年より一週間程遅かった今年の記念祭は、一日目の体育祭が中止となり、二年生にとって最初の体育祭。三年生にとって中心となり、勢い込んでいた体育祭。二年生にとって最後の体育祭。であるなど、みんな残念に思ったことだろう。しかも、今年はユニフォームの点検日があったことなどあって、女子は一段と腹立たしかったでしょう。しかし、残りの4日間は、校画会の代わりに招待公演を行なったり、文化部展示を自治会展示を同時に行なったり、「Culture Festival in AUSS」という行事を新たに加えるなどして、楽しいものとなったようだ。特に四日目に催された記念講演会では、講師の山口良治先生は、テレビで上映されていた「スクールウォーズ」のモデルとなった先生なので、みんなよく知っていて、感動した人も多かったと思う。

その反面、今年も独創性に欠けていた面があったのではないだろうか。今年の記念祭のテーマは「THE EARTH」であったが、今ひとつテーマかれていた。しかし、今では早くからパンフレットなどを通して盛んに宣伝しているのだから、もっとテーマについて考えることができるはずである。

今年も、三年生の模擬店などに人気が集中したが、一・二年生の展示の中には手の込んだしかをしてあって、人気を集めているようだった。

ともあれ、長いようで短かかった記念祭も幕を閉じたが、皆さんも記念祭についてもう一度考え今一歩、前方に浮かび上直してみてほしい。

自治会長のお話

記念祭も十月五日をもって幕が降ろされた。体育祭を含め、これらのことを記念祭全体を通してみると執行部の予想以上の成功を得ることができたと思う。しかし記念祭自身、又記念祭の企画、運営においてもまだまだ反省点の多いことは確かである。例えば記念祭がなぜ毎年行われ、なぜ他校と同様に芦高祭と言わないのか、学校集会、その他ごとに盛り上がらなければ出版物等で何度も説明がありましたはずだが、単なるお祭りとしか思っていない者がいよう。なぜ記念祭でなければならないかという点に欠けてしまう。大くの二つの点から記念祭に新たな変革を加えて行かなければならなかった。そこで昭和二十四年に今の自治会の前身である校友会、自治会の二つの組織が一本化され、その年の十月に校訓である「自由・自治・創造」のもの方は大きく学校側の協力を得ることもできた。これら二つの企画は失敗する立場にいた。ここ数年記念祭は、自治・創造」から考えると行部の予想以上の成功を得ることができたと思う。しかし記念祭自身、又記念祭のこと。運営においてもまだまだ反省点の多いことは確かである。例えば記念祭がなぜ毎年行われ、なぜ他校と同様に芦高祭と言わないのか、学校集会、その他の点に欠けてしまう。大きくの二つの点から記念祭に新たな変革を加えて行かなければならなかった。そこで昭和二十四年に今の自治会の前身である校友会、自治会の二つの組織が一本化され、その年の十月に校訓である「自由・自治・創造」のもの方は大きく学校側の協力を得ることもできた。これら二つの企画は失敗する立場にいた。ここ数年記念祭は、自治・創造」から考えると行部の予想以上の成功を得ることができたと思う。しかし記念祭自身、又記念祭のこと。運営においてもまだまだ反省点の多いことは確かである。例えば記念祭がなぜ毎年行われ、なぜ他校と同様に芦高祭と言わないのか、学校集会、その他ごとに盛り上がらなければ出版物等で何度も説明がありましたはずだが、単なるお祭りとしか思っていない者がいよう。なぜ記念祭でなければならないかという点に欠けてしまう。大きくの二つの点から記念祭に新たな変革を加えて行かなければならなかった。そこで昭和二十四年に今の自治会の前身である校友会、自治会の二つの組織が一本化され、その年の十月に校訓である「自由・自治・創造」のもの方は大きく学校側の協力を得ることもできた。これら二つの企画は失敗する立場にいた。ここ数年記念祭は、

記念祭終了予定日の次の日は体育館改築の関係上非常に狭くなってしまうため、記念祭をしやすいようにと、一応、来年の記念祭日として定められている。しかし記念祭自身、又記念祭のこと。運営においてもまだまだ反省点の多いことは確かである。例えば記念祭がなぜ毎年行われ、なぜ他校と同様に芦高祭と言わないのか、学校集会、その他ごとに盛り上がらなければ出版物等で何度も説明がありましたはずだが、単なるお祭りとしか思っていない者がいよう。なぜ記念祭でなければならないかという点に欠けてしまう。大きくの二つの点から記念祭に新たな変革を加えて行かなければならなかった。そこで昭和二十四年に今の自治会の前身である校友会、自治会の二つの組織が一本化され、その年の十月に校訓である「自由・自治・創造」のもの方は大きく学校側の協力を得ることもできた。これら二つの企画は失敗する立場にいた。ここ数年記念祭は、

記念祭終了予定日の次の日は体育館改築の関係上非常に狭くなってしまうため、記念祭をしやすいようにと、一応、来年の記念祭日として定められている。しかし記念祭自身、又記念祭のこと。運営においてもまだまだ反省点の多いことは確かである。例えば記念祭がなぜ毎年行われ、なぜ他校と同様に芦高祭と言わないのか、学校集会、その他ごとに盛り上がらなければ出版物等で何度も説明がありましたはずだが、単なるお祭りとしか思っていない者がいよう。なぜ記念祭でなければならないかという点に欠けてしまう。大きくの二つの点から記念祭に新たな変革を加えて行かなければならなかった。そこで昭和二十四年に今の自治会の前身である校友会、自治会の二つの組織が一本化され、その年の十月に校訓

次は、生物の建先生です。建先生は芦高の一回生でもあり、（と言えば年はわかってしまうが）私達の大先輩になります。ふだんは怖そうですが、本当はとても話しやすい先生なので、進路の事など何でも相談しに行きましょう。では、インタビューに入ります。

出版部（以後、出と略）「名物先生に選ばれた感想はどうですか。」

建先生（以後、T と敬称略）（ちょっとムスッとして）「僕は別に名物ではない。」

出「えー、名物ですよー。えっと、先生は昭和三十九年からこの学校におられますが、芦高は当時とどうでしたか。」

T「難しい質問やなー。うーん」（しばらく考え込んで）「それは都会性のいいところを表面的に身につけていて、素直さがある生徒。」

出「都会性のいいところねえ……私服にいてはどう思われますか。」

T「君達は、制服の方がいい？」

出「ん、やっぱり制服の方が考えなくて済むし、かっこいいし。」

T「でもよその制服の学校の生徒が持っていない、みだしなみにT.P.O.（時と場所、場合）を考える能力がだんだん身についていくのが私服なんだ。」

出「そうかなァ。」

T「うーん。よく飲むからぴっくりしている。一日に三種類のお酒を飲む。学校にはあらゆる種類の酒が全部揃っているからなー。」

出「へえ、すごい。」

出「急に質問は変わりますが、先生は日によって態度が違うようですね。」

T「僕はいつも変わらない。」（と、きっぱり）「みんなそんな事思ってるの？。」

出「はい、先生が教室に入って来られた瞬間、今日は機嫌が悪そうだなあとか隣の子とぼそっと言ったり。」（笑）

T「ハハハ」（大笑い）

出「最後に芦高生に一言。」

T「立派な先輩たちがたくさん出ているから学校にいる事を自覚して、芦高生として恥ずかしくないように自由な中のきまり（シンボルの学年章なども）を十分に守ってほしいものだ。」

出「どうもありがとうございました。」

＊　＊　＊

今回は、とても対照的？なお二人の先生にインタビューしましたが、どうでしたか。井上先生は、「あまり変な事を書かないでくれよ。」と言いながら、ちょっぴり照れて話してくださいました。あの建先生は、いつもとはうって変わって、ニコニコ顔で話してくださいましたが、日によって機嫌が違うとか絶対にないし、と念を押して言っておられました。BCL生物選択者の私にとっては正座させられたり、「予習、予習」とやかましく言われるのは、大変苦痛です。とにかく、井上先生、建先生、御協力ありがとうございました。

編集後記

第二二九号いかがでしたか。今号は記念祭号＋特集号でつくることになったので予定より一ヵ月も遅れてしまい反省しております。人数不足で四面つくるのは大変で記事もなかなか集まらず、内容もあまり充実していませんが、一生懸命つくりましたのでご覧下さい。

なお、今回特に御協力を頂いた東條事務長・中島教頭先生・高木(正)先生・その他の先生・生徒の皆様、本当にどうもありがとうございました。これからも御協力お願い致します。

部員から一言

▼サイモンは顔が縮んだせいか、近頃とっても、カッコイク見える。（部外者）▼アァ、加藤英・カムストック・河埜ってやかましいな。（ソプケン）▼このごろクッキー作りに熱中してまーす！（アイスクリーム）▼近頃生物のために買った色えんぴつでぬり絵に燃えてますっ！神津カンナ）▼近頃ぱけーっとしているって？いいえもマイペースなの子）▼古いので私の星は首から上は悪いんだって顔、頭、口が悪い!?（B型人間）▼私の友達は、欲求が満たされていないので発狂し、私を困らせます。（H女子ノ）▼誰が蚊を繁殖させたのですか？（かゆみ）▼オマエハカタノキンニクノツケカタヲマチガエテイル!!（おおにら）▼毎日、選択英語に悩まされています。（ピンポンパンツ）

出版部

新入部員募集中
燃える男・女!!
212号教室まで